

23/11/27 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし
（河村市長のヤジを除く）

副議長：次に、浅井正仁くんにお許しいたします。浅井正仁くん。

浅井正仁（自民・中川区）：それでは、議長のお許しをいただきましたので順次質問させていただきます。

続きまして名古屋城天守閣木造復元についてであります。さて本日は天守閣木造再現事業を進める上で、その大前提となる考え方について3点質問したいと思います。

まず1点目、市長は焼失前の姿を復元し、本物を造ることにこだわっています。天守閣の再建は文化庁が令和2年4月17日に公表した「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準の決定について」を根拠にして、復元か、復元的整備かという選択になると思います。この復元か、復元的整備かという議論は、もう何年も前から市長は復元、私は復元的整備と意見がわかれています。そこで再度の確認ですが現在、名古屋市が進めている天守閣再現事業は、文化庁の基準という復元として進めているのか、復元的整備として進めているのか日頃から文化庁とは絶大な信頼関係があると自負している松雄副市長にお聞きします。

次に2点目松雄副市長が観光文化交流局長になったとき、突然「復元と解体の一体申請」に変えて、解体申請を取り下げました。私はこれが今、大幅にこの事業の遅れている原因だと思うのですが、今でもこの判断は正しかったのかという認識ですがお答えください。

そして、最後に3点目。

9月議会で要望した新技術となる昇降機の開発契約を締結したとお聞きしましたので、市長が自負する日本一の福祉のまち名古屋をつくるため、新技術による昇降機で最上階からの景色が見られるようにしていただきたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。以上で、第1回目の質問を終わります。

河村市長：エレベーターを最上階までつけることについてですけど、前から言っておりますけど、文化庁の令和2年の基準ですねこれ。これに明確に書かれておまして、復元と復元的整備を分けてありまして、復元については、史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準の復元における技術的事項については、「復元する歴史的建造物遺跡の位置、規模、構造形式等において十分な根拠を持ち、復元後の歴史的建造物が規模、構造、形式等において高い蓋然性を持つこと」とあります。また令和5年、令和元年8月に報告されました史跡等における歴史的建造物の復元のあり方に関するワーキンググループでは、「他方で様々な再現が行われている中で、忠実性を追求し再現される歴史的建造物の質が確保されるよう

適切に再現された歴史的建造物については、適切な評価を与えることが適当である」と、こういうふうにも明文中でされております。それから名古屋城天守閣が先人たちの努力により、写真、昭和実測図などの歴史の史、歴史的資料が残されており、歴史的建造物の再現の中でも十分な根拠による蓋然性の高い復元が可能な唯一無二の城でございます。特に、昭和実測図に関しては戦時下の名古屋城防空対策に関する打ち合わせ議事録に、記録に括弧してですね、（万一大破壊をきたりしたときの記録として、すこぶる貴重なるもの）（市民に対して、名古屋城を破壊するも、いつにても旧しうる準備ありと宣伝するのは、市民を安心せしむる方法として効果あらん等の段もありたり）と記載があることから、万一焼失した場合に復元がなされることを期待されていたのじゃないかと思えます。焼失前の姿を復元し人類の宝として後世に本物を残すことが任務であります。この文章の中で言うておりました高い蓋然性。高い蓋然性を持つことということでございまして、どこまで高い蓋然性かというのはそれは皆さんで考えることでありますけど、少なくとも世界中にただ1個しかないこの図面までですね残してですね、国宝第1号であった城を、やっぱり本物、エレベーターをどういう格好か知りませんが、作ってもらう、作ってしまっただけですね、高い蓋然性があるとは到底言えないと思えます私は。の名古屋人のそういう名前の人間の持つとどういいうですかね、これ僕は使命だと思えますけど、使命だと思えますそれ、昭和実測図を作った人が昭和16年のへんらしいんだけど、言うてるじゃないですか、残してくれと。だから、そういう気持ちでやるのは、あなたにとっても使命なんですよ、私にとっても使命なんですよ、残す。エレベーターをつけるのは、高い蓋然性があるとは到底思えないということです。

松雄副市長：名古屋城天守閣の木造復元について私2点のお尋ねをいただきました。初めに、本市が進めている天守閣再現事業は文化庁の基準で言うところの復元なのか、復元整備なのかという、どちらかなのかというお尋ねでございました。

文化庁が示す史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準には、復元と復元的整備の基準が示されておりますが、名古屋城天守閣木造復元がどちらに当たるかについては、以前文化庁にお伺いしたところ、まずは基準に照らして市が主体的に考えるべきと聞いており、文化庁からの見解はいただいております。文化庁の基準によれば復元とは、これ市長の答弁とちょっと重なって恐縮でございしますが、歴史時代における史資料により復元する歴史的建造物が十分な根拠を持ち、復元後の規模、構造形式等において、高い蓋然性を持って再現する行為とされ、一方で、復元的整備とは、史跡等の利活用の観点等から、規模、材料、内部外部の意匠構造等の一部を変更して再現すること、あるいは、学術的な調査を尽くしても史資料が十分に整わない場合に、それらを多角的に検証して再現することで、史跡等全体の保存および活用を推進する行為とされております。したがって、文化庁の基準に照らしてみれば、当時の外観や内部の細かいところまで確認できるようなガラス乾板写真、昭和実測図を始めとする豊富な資料が残されている名古屋城天守においては、これらの豊富な史資料の調査研究、詳細な分析をもとに地元有識者の指導、助言をいただきながら、できる限り当時の天守を体感できるような計画を検討してきており、本市が進める天守閣再現事業は、文化

庁の基準でいうところの復元と考えておりますので、復元の基準に沿った整備基本計画となるよう、取りまとめてまいりたいと考えております。次に解体先行の現状変更許可申請を取り下げたのは正解だったのかといったご質問でございました。確かに平成31年4月、木造天守復元を念頭に、現天守閣の解体を先行する現状変更許可申請を行いました。令和3年6月、文化庁所管の文化審議会文化財分科会から解体後に木造天守を復元するのであれば、現天守閣解体のみならず、木造天守復元についても一体として、その内容に加えるよう見直しを図るのが適当とのご助言を賜りました。そうしたことから、解体の申請書については一旦却下をいただいた上で、文化審議会文化財分科会からのご助言に沿って事業を進めているところでございますので、ご理解賜りたいと存じます。以上でございます。

副議長：浅井正仁くん。

浅井正仁（自民・中川区）：それぞれ本当にご答弁ありがとうございました。

そして名古屋城について再質問をさせていただきます。先ほど松雄副市長は、今文化庁の基準でいう復元として進めていると御答弁されました。文化庁とは信頼関係がある松尾副市長の言葉ですから、当然、文化庁とも調整された上の答弁だと思っています。しかし、残念ながら結論から言えば、今の検討内容は、復元ではなく復元的整備です。では、その根拠を説明させていただきます。これは、名古屋城の担当者が作ってくれた焼失前の天守に対する木造復元。復元天守の主な改変事項というパネルを作っていただきました。この中には屋根基礎を構造補強、防災設備、照明設備、バリアフリーとあります。先ほど松雄副市長はこれだけの改変をしても、文化庁とは復元で合意しているから、復元の基準で整備基本計画をまとめていくと答弁されました。しかし私が文化庁に確認したところ違っていました。確かに名古屋城天守閣は、文化庁の復元基準に適合した再現ができると文化庁も認めていますが、今の名古屋市の検討内容は、復元的整備になるというのが文化庁の正式な見解です。例えばこのパネル2の基礎、がない。市長申し訳ないけど、静かに聞いてもらえる？議事録残してもらって結構ですから、市長、申し訳ないけど聞いてくれる。聞いてお話を、人の話を止めないで、反論権でも何でも使えばいいじゃん、例えばこのパネル2の基礎には現天守閣のケーソン基礎の使用とありますが、文化庁の担当課長は目に見えない基礎部分については、現代的な構造等を用いて修理することもあるので、名古屋城の天守閣の再現に当たり、基礎構造をSRCにしても復元となりませんと言っています。さて、ここまでなら文化庁は誰が聞いても同じ答えをしてくれるでしょう。しかし本当に文化庁と交渉ができるなら、この資料の隠れた課題をして指摘してくれると私は思っています。文化庁はこの指摘を、それも誤解のないように文書でいただきました。ここに二課長の名前が入った資料があります。先ほどこの資料のここを見てください。4番目に書いてある防災設備、3階から4階に階段を1ヶ所増設と書いてあります。確かに文化庁の見解でも、構造等を変更せず、仮設で階段等を設置する場合には復元と見なせるとのことです。しかしこの階段が常設なら復元ではないというのが、文化庁の見解です。わかりやすく言えば、増設する階段は特別なときだけ設置す

るいわゆる仮設に限るということです。しかし、今回、名古屋市が計画するこの3階から4階に増設する、増設する階段、観光客を天守閣に入れるためには必要不可欠で、常に設置されている必要があります。つまり常設。なりますよ。これが私が今回確認した文化庁の見解をお知らせします。これが文化庁の見解です。誤解のないようにそのまま読まさせていただきます。

『様々な方々がより快適に文化財に親しむことができる環境作りを目指して、バリアフリー化の充実に努めるべきだというのが、文化庁の基本的な考え方、まず一つ目。

そして二つ目、名古屋市において、3階から4階までの間に築城当時は存在しなかった階段を常設する等の計画がされているとしたら、これは規模、材料、内部外部の意匠、構造等の一部を変更して再現することとなるため復元ではなく復元的整備となる。三つ目、内部の意匠、構造等の一部を変更して、最上階までエレベーターなどの昇降機を設置すれば復元的整備となるが、文化庁としてこうした再現手法を否定するものではない。また、文化庁として、名古屋城木造天守閣の再現に当たり、復元を前提とするような意見を述べたことはない。四つ目、再現する木造天守閣について、文化庁として適切な評価されると、文化財に指定されるという見解を名古屋市に伝えたことはなく、復元、復元的整備に関わらず再現されたことをもって、直ちに文化財に指定されるものではない。』

以上これが文化庁からいただいたそのままの話です。ひょっとしたらこれ松雄副市長は知ってたのかもしれない。常設増設を。松雄副市長知ってましたか。

松雄副市長：今の浅井先生がおっしゃられた文化庁の見解から知りませんでした。

浅井正仁（自民・中川区）：私3回のやり取りでね、これ聞きました。どうなんだろうね、復元か復元的整備。価値を減らすとかそういうことじゃないんだよ市長。

（ それから、つけちゃうと、そうですか。市長やでやるのやめてくれる。

申し訳ないけどね、こっちはさ、真面目にやってんだよ。勝手に答えるほとんどね ）

次行くね市長、聞いておいてね、市長、聞きたくない気持ちよくわかるよね、本当に聞きたくないと思う。今まであんだけ復元復元って言っとったんだもん。それが否定されちゃったんでもう聞きたくないよちょっと待って、まだそれからね先ほど質問に松雄副市長ね、解体申請を取り下げたのは文化庁の指示のようにちょっと聞こえるけど、これそうじゃなかったでしょう。あなたが復元前提だと言ったからこれ文化庁が所見を出したんですよね。あなたがね復元前提という発言、これは当時の文化庁も多分極めて衝撃だったと思う、その当時の渡辺局長はね、この議会に対しても、現在の天守閣は耐震がなく、地震で倒壊する危険性が高く人の命に関わる。さらに重要文化財である石垣を守るためにも解体したいと私達に説明

したんですよね、皆さんそうでしたよね。しかし、あなたになって復元を優先した、となると人命よりも復元が大切だったのかって思えてこれなんですよ。前回の本会議でね、私今の天守閣をわざと再度開けてほしいと言ったら、人命が、人の命が関わるからと答えた。一体どっちが本音なんだろうね。もうあそこ閉めてから、何年だろう。その間、人命の危機はいいんだろうか、石垣はいいんだろうか。だったら先に解体先行だったのかも知れないね。で、松雄副市長は存在意義をかけて自分の集大成と言っていました。

復元、復元的整備も聞けないとなるとね、市長は松雄副市長、文化庁と交渉できるよう余人をもって代えがたしと言われてまでなかった副市長だ、でね市長。ちょっと質問させて、市長に再質問させていただきます。以前、私を始め議会も、委員会に市長に来てもらったときにね、僕委員会で市長なかなか前に進まないから、議会も一緒にやりましょうかって呼びかけさせてもらったら、市長は私にええですわって言った。自分たちでやりますからって言った。それが今回のこの結果でしょう。あんときにね、僕も特別秘書にでもしてくれとったらね、今頃ね。今頃解体ぐらいはね終わっとったかもしれんね、全部市長が断るからね、これ無駄な5年だったね。市長、令和3年3月の委員会で、橋本ひろき委員が復元的整備になるんだったら最初っからやらん方がそれぐらいのことを言ってもらえませんかと質問します。市長はそれぐらいの気持ちですと言っています。私その1年後の3月の本会議で、民主の橋本ひろき委員の質問に、復元的整備ならやらない方がいいって答えているけれど、史実に忠実な復元するのかしないのかと質問した際にも、市長は、復元だって答えてるんですよ。

今回この文化庁のね、やり取りを聞いて、階段が常設なら復元的整備と、文化庁が言ってること。となると、市長の方がやっぱあなたはあなたの言っている復元じゃなくなったわけだ。だったら、今の木造復元天守閣の木造復元やめるんですからね。市長お答えください。

河村市長：階段が常設か常設でないか調査してないかちゅうのは、私直ちに文化庁に連絡して確認します。今の造ろう」としてのがね、姫路城もありますから、国宝でも、図面がないものがあります。どうなるんだと。それプラス名前は言うのはあれですよ、私は200年、文化庁の方は上の方の人ですけど200年で国宝にすると、そういうつもりでやってください、私は200年はちょっとえらいので100年だよと。それから復元ということで自信を持って進めてくださいと私は言われていますから。

浅井正仁（自民・中川区）：文化庁には復元を自信持って進めろ、そらそうでしょう。市長たちが復元でやりたいって言ってんだから文化庁が止めるはずないじゃない。だけど文化庁の見解は、復元的整備、あなたたちが言うのは勝手だ。文化庁トップだろうが何だろうが、ね、トップなら誰なの。議長すいません。河村市長もういいわね。もう市長に聞いた私がね馬鹿だった。本当に情けない前回の本会議で、河村市長は自分の持論をうだうだうだうだと喋った。だけどあれを聞かなきゃと思って僕は我慢に我慢をして自分の質問を止めてまであ

あなたの持論を聞いた。あなたの持論をこの議場でも市民も、誰が心に響いたんだろう。僕はあなたのね、持論を聞いて、寂しい発想だなと思った。

要は市長はあのとき言ったのは、国宝にするために復元したい、設計図があるから復元できるね、こんな考えだからね市民の人たちはね盛り上がってこないんですよ、市長。なぜ家康がああ平地に名古屋城を建てたのか、家康公が戦乱の世から平和なようにしたいと軍縮を決断して実行した城それが名古屋城。そして昭和の時代、焼失した名古屋城の再建に当たって、二度と戦争のない平和のようにしたいという願いが込められた城、それが今の現天守。私が名古屋城の天守閣を再現したい理由はまさにここ。家康公の思いと今の天守閣の思いね、これを後世にしっかりと伝えたいからね、市長、文化庁も言ってますけど現在の天守閣の価値の評価、市長もね副市長もね、あなたたちは単に建築的な価値だけ考えてませんか。現在の天守閣にはね、さっき言ったみたいな、時代時代の人たちのね、気持ちが入ってるんですよ。魂が入らなきゃ駄目なんですよ、家康公はね造ったときに、国宝にしたいから造ったんですか。今の現天守の造った人たちは100年後に国宝にしたいで造ったんですか。市長だけじゃないの、国宝にしたいで造ってのはね。めちゃくちゃじゃないと思うよ。どっちが心に響いたか、ここの議場の人は多分僕の方が心に響いたと思うよね。市長、この平和とね、人命と、そして家康公が最後に残してくれた石垣、これを守るのかね。私達の役目であり、そして今度に建てる令和の天守閣、木造復元そこに意義があるんじゃないのかな。市長、国宝なんていうのはあなたが決めるもんじゃない。100年後の後世の名古屋市民や、日本国民がその当時の人たちの気持ちがよくわかったと言って、国宝にするのはね、後世の人たちが決めるんだと言って、私の質問を終わらせていただきます。